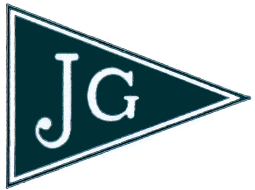




建学の精神

女子学院の源流となった三つの学校（A六番女学校、B六番女学校、桜井女学校）のそれぞれの創設者（ジュリア・カロゾルス、ミス・ヤングマン、桜井ちか）は、それぞれ強調点の違いこそあれ、「女性の自立」を教育目標として掲げていました。

それゆえ、女子学院には明文化されたスクールモットーのようなものではありませんが、「聖書の教えに基づいて、神に支えられ、『女性の自立』を目指すこと」こそ、女子学院の「建学の精神」といえるでしょう。



女子学院 校章・マーク
1948年（昭和23）、校旗の三角形の中にJGの文字があるデザインをもとに校章としました。

学校法人 女子学院

〒102-0082 東京都千代田区一番町22-10

TEL：03-3263-1711 FAX：03-3263-1715



創立

女子学院の歴史は、明治のはじめに女性宣教師や日本人キリスト者によって建てられた三つの女学校にさかのぼります。

第一は1870年（明治3）築地居留地の6番に、アメリカ長老派教会の宣教師C・カロゾルスの夫人ジュリア（1845～1914年）が設けた〈A六番女学校〉です。なお、カロゾルス宣教師は〈築地大学校〉を始めています。

第二は1874年（明治7）にアメリカ長老派教会ニューヨーク婦人伝道局のミス・ヤングマンとミス・パーク（のちにD・タムソン宣教師と結婚）が同じ築地居留地6番地に設立した〈B六番女学校〉で、その後、居留地42番（新栄町）に移転して〈新栄女学校〉となりました。

そして第三は1876年（明治9）に桜井ちか（1855～1928年）が始めた〈桜井女学校〉です。

この桜井女学校と新栄女学校が合併して校名を〈女子学院〉と改め、現在地に校舎を新築して発足したのは1890年（明治23）のことです。初代院長には矢嶋楯子が就任しました。ちなみに現在、創立記念日となっている10月24日は、1876年（明治9）桜井ちかが、東京府から番町に女学校を設立する許可を得た日です。

1876年（明治9）カロゾルス夫妻が広島に赴任するためA六番女学校を閉校することになったとき、新たに銀座教会を設立した原胤昭らは、代わりの女学校（成樹学校。のちの原女学校）を銀座3丁目に建てることを決議します。生徒は20～30人でしたが、横浜の共立女学校（横浜共立学園の前身）からアメリカ一致海外伝道局宣教師であったミセス・ツルー（1840～1896年）を迎えて教育にあたらせました。

ミセス・ツルーはその後フィラデルフィア婦人伝道局に移籍して伝道の拠点〈光栄社〉を、原は〈救済義会〉という貧窮者救済事業の拠点を、学校内に置いて活動しました。

原女学校は経営難のため1878年（明治11）に閉校したので、ミセス・ツルーは新栄女学校に転任、生徒たちも新栄女学校に移り勉強を続けました。原は、学校の経営からは手を引きますが、その後も出獄者保護など多方面で先駆的な働きをし、のちに日本初のキリスト教教誨師になりました。

創立の背景と歴史

これらの女学校が生まれた背景には、幕末に開国して以来押し寄せてきた西洋文化、特にキリスト教宣教師の働きと、それを受け止めて明治はじめに急速に広がっていった文明開化と呼ばれる風潮、その中で起きた英語学習ブームがありました。しかし、宣教師たちは単なる知識ではなく、愛の実践を行動によって示しました。成樹学校に光栄社と救済義会が置かれたように、新栄女学校でもミス・ヤングマンと9名の生徒が「キリストの精神をいかに社会的に実践するか」という課題のもと、ボランティア活動の団体として〈好善社〉を始めました。好善社は、1877年（明治10）設立以来、現在も活動が続いています。

新栄女学校に転任後、「日本の女子教育は、日本女性の手によって完成されるべきである」という信念から日本女性の教師を探していたミセス・ツルーは、カロゾルス宣教師の弟子である安川享牧師から矢嶋楯子を紹介されます。

矢嶋は、1878年（明治11）新栄女学校の教師となりました。1893年（明治26）には、禁酒と婦人の解放を目的として創設された〈日本キリスト教婦人矯風会〉（現存する最古の婦人団体）の初代会頭ともなった矢嶋は、熊本県上益城郡の惣庄屋矢嶋忠左衛門直明の娘です。三人の姉は横井小楠の高弟である竹崎茶堂の妻で、熊本女学校（熊本フェイス学院の前身）を創設した順子、同じく横井小楠の高弟である徳富一敬と結婚し、徳富蘇峰・徳富蘆花の母となった久子、横井小楠の後妻となったつせ子で、いずれも日本の女性史上に名をなす人物です。

桜井女学校の創立者 桜井ちか（1855～1928年）は、芳英女塾で英語を学び、キリスト教に興味を持って築地居留地のカロゾルス宣教師の元を訪ねます。新栄教会に出席するようになり、D・タムソン宣教師から洗礼を受けました。その後、横浜の共立女学校でも学んでいます。桜井は1879年（明治12）には付属幼稚園（日本で最初の私立幼稚園。明治30年ごろ閉園）を設置します。1881年（明治14）桜井が夫の伝道の地 北海道に女学校設立の志を持って辞任したのち、経営はアメリカ長老派教会の手に移り、ミセス・ツルーと矢嶋は桜井女学校に転任してこの学校を支えました。

1887年（明治20）の講演で、ミセス・ツルーは「世俗的幸福だけを求めるのではなく、高尚なる志を活かす真の力を養成しなさい。自分のつとめを怠ったり、自分に力があるのに他を助けなかったとき、苦痛を感じるような女性になりなさい」と述べ、女子学院の土台を築くとともに、日本の女性のために各地に女学校をつくり、また卒業生を教師として送り、女子教育に力を注ぎました。

1884年（明治17）には幼稚保育科を、1886年（明治19）には看護婦養成所を設置しました。また1889年（明治22）には、学資金のない女性のために〈女子独立学校〉を開校しました。この学校は、のちにミッションの手を離れ〈精華学園〉となり、現在は移転し〈東海大付属高校〉となっています。

明治期には、幼稚園から現在の大学教育に相当する高等科まで擁していた女子学院ですが、高等科を1920年（大正9）に、プロテスタント各派の協力で設立した東京女子大学に統合して以来、中学・高校6年間の一貫教育によって中等教育に専心してきました。



初代校長 矢嶋楯子（1833～1925年）
校則で縛るのではなく、「あなた方は聖書を持っています。だから自分で自分を治めなさい」と奨めました。

